

平成二十三年 新入会員紹介



福田 越子
初めまして、平成二十三年度に入会させていただきました。福田です。

私は、のどかな田園風景の「益子焼」で有名な益子町に生まれ、現在は「いちご栽培日本一」の真岡市に住んでおります。

昨年の三月に定年退職し、職場人間から家庭に入り、地域社会の一員としての自分を振り返った時、このままで人生を送るには何か足りない...と感じておりました。そんな時に某誌の案内欄の「健康生きがいきづくりアドバイザー」の研修が目にとまり、「これだ」と思い受講しました。皆様の熱心なご指導の下、お蔭様で無事合格、認定をいただき感謝しております。

現在は真岡市社会福祉協議会の「傾聴ボランティア」、栃木県の「井頭公園緑の相談所友の会ボランティア」、放送大学の「心理学研究会」などの活動をしております。

今後、皆様のお力をお借りしながら、「健康生きがいきづくりアドバイザー」として自分出来ることは何かを考え、実践できるようにするための一年と位置づけたいです。
自己の経験を活かし「できるところの一步」から始めて行こうと考えておりますので、どうぞよろしくご指導をお願い申し上げます。



高橋 武紀
新入会員の高橋武紀(タケノリ)、皇紀2600年生まれです。

鹿沼市に生まれ、育ち、栃木県に働き故郷を一度も離れたことがありません。「井の中の蛙大海」と視野の狭い生き様を反省しています。

今、東日本大震災で無念に落命された方々。日々苦難に耐え、懸命に生きていく人びとのことを見聞するとき、涙し、人間・人生の儚さを痛感し、寂しく、言葉のない憤りを覚えます。

これら自然(災害)に対する私達の無知、驕りへの天罰なのかも知れません。これから私は、今回の災害・人災から多くを学び、被災された方々の願いを付度して、これまでの経験を活かしながらボランティア活動などに心して励まねばと考えています。
会員の皆様どうぞ宜しくお願いいたします。



6月5日の定例会において、県健康福祉部健康づくり推進担当の平野裕課長補佐(写真)に、健康21プランと県民健康栄養調査結果の概要について説明していただきました。

平成二十三年 各専門部会の活動計画

研修部会の活動計画



田部井一男
平成二十二年は、養成講座・シルバークラスの講演・鹿沼生涯学習大

学講座・各所から依頼された講演等に取り組んできました。今年度も昨年の流れを基本として取り組みますが、今年はシルバークラスから講師がなくなり、今年度の講演がなくなり、今年度のものを見直しして改善すると共に、これに代わるものを検討していくことにします。

活動目標としては、研修部会を午前中にやることを基本とし、その後に定例会に臨むこととします。また、養成講座の推進・鹿沼生涯学習大学講座の開催・三年経った講演テーマの見直しによる変更・削除・追加を行い、新しく立ち上げるものを検討します。更に、議題やテーマのない時を活用して参考資料を配布して勉強会を行い、部会内の意見交換と情報の共有を図り、コミュニケーションの深度化を目指したいと思っております。



スキルアップを目指して



高野 幸夫
国難と言われるほどの社会状況に伴って生活者も予期しない戸惑いと不安に見舞われて

いる。昨今、視点を変えれば健康生きがいきづくりアドバイザーとしての私達の役割や社会的責任は大きいと言える。
今期の講師活動者に新しく期待のメンバーが加わったので活動の範囲と分野はかなり厚みを増したように思える。特に音楽芸術と調理栄養の専門家の参加は過去に希薄な部分であったので心強い。

ところで講師として活動するのに必要不可欠なのは講師のスキルである。謝金があるとうと無かるとうと主催者にとってはその後の活動に影響を与えるし、視聴者としては興味と関心の気持ちで聞きに来るはずである。

今年度はスキルアップのための勉強会を復活させて、視聴者が喜び主催者から感謝されるような講師陣として実力を身につけたい。またチャンスがあれば震災被災者の避難施設に向いて、元氣を取り戻して頂けるような機会を提案したいと思っている。
田部井部会長を盛り立てながら講師活動がその任務と社会的責任を少しなりとも果たせる様に活性化していきたい。

平成二十三年 定期総会開催報告



長尾 嘉郎
三月十一日に発生した「東日本大震災」のため、当初予定していた四月十日を延期して、四月二十四日(日)十時から、

とちぎ健康の森教室 Dにおいて、十七名の会員参加の下、平成二十三年度の定期総会を開催した。

第一号議案(平成二十二年活動実績、並びに収支決算について)及び第二号議案(平成二十三年活動計画(案)、並びに収支予算(案))については、共に異議が無く承認された。

第三号議案(役員改選について)は、会長 森山京逸氏、副会長 黒宮ヤヨイ氏、田部井一男氏、事務局長 長尾嘉郎氏、理事 藤田三夫氏、島方正敏氏、溝口清氏、武田裕氏、監事 君良秀氏、小原佳一氏を選任し、顧問に高野幸夫氏が委嘱された。その他、新入会員二名(高橋武紀氏、福田越子氏)の紹介があり、総会終了後同会場にて新入会員歓迎昼食会を開催した。



歓迎昼食会

ロコチェック

健康・生きがい開発財団 常務理事 大谷 源一

一、片足立ちで靴下がはけない
二、家の中でつまずいたり滑ったりする
三、横断歩道を青信号で渡りきれない
など七項目あげられているロコチェック。

一九五八年の平均寿命は男性五十八歳、女性が六十二歳だったものが、二〇〇八年男性七十九歳、女性八十六歳になっていきます。高齢社会とともに膝と腰(運動器)の機能が低下し要介護への道を辿る、「ロコモティブシンドローム」と東京大学高齢社会総合研究機構(東大IOG)の中村耕三先生は警鐘を鳴らしています。ご存じのように辻理事長も東大IOGを拠点に活動しておられるところです。

健康生きがいきづくりアドバイザーの活動も多様化し、若い世代への支援・若い世代につながる活動、地域支え合い(コミュニティ・カフェや市民後見人)、そしてこのロコモティブシンドロームと無縁でいられるノルディックウォーキングの推進といったことがあげられます。

「生きがい」自己実現「社会貢献」の担い手として、健康生きがいきづくりアドバイザーの方々の活動領域が拡がり、各健生間での広域連携が活性化していく。その媒介として財団をご活用いただくようお願いする次第です。

事業部会の活動計画

事業部会長 溝口 清



平成二十三年度の事業部長を拜命致しました。溝口です。どうぞよろしくお願ひ致します。

昨年度は、「知る栃・オトナの探勝会」、「ヴァイオリンコンサート」等を開催してきました。

平成二十三年度は、様々な分野で活躍なさっている新会員の皆さんを迎えたこともあり、「会員の持てる力」を活かした活動を模索して行きたいと考えます。具体的には、従来からのコンサート活動、歩こう会の開催に加え、新たな事業部会活動が提案出来るよう、次のような取り組みを行います。

事業部会活動目標

- 一、既にある人材、資源を活用し、継続して活動できる事業を進める
二、「健生会員の持てる力」を活かした、新たな地域貢献活動を検討



黒宮邸で事業部会を開催

平成二十三年度事業部会活動

一、既にある人材、資源を活用した活動
○さらさら市定期文化振興事業の「さらさら市ドリムプロジェクト」(応募「音の花か」コンサート)を提案。採用されれば、事業費としてさらさら市の助成金があり、市民の皆さんに楽しんで頂けるプログラムを提供したいと考えています。

広報部会の活動計画

広報部会長 藤田 三夫

広報部会では、ホームページの管理・運営、年二回の会報の発行と、事業部会、研修部会の実施する各種事業についての広報活動をタイムリに展開します。また、当協議会の活動基盤を確保するために、県南、県央、県北に拠点を置く各種団体との連携を図るよういたします。会員各位のご協力をお願いいたします。



会報13号編集会議開催中